

12万人が不服審査請求

年金削減中止を求め行動

全日本年金者組合が取り組んだ年金削減中止を求める行政不服審査請求は、全国で12万余人が厚生労働省はじめ各年金事務所・地方厚生局96ヶ所に提出しました。

政府が年金支給額を段階的に2.5%引き下げることと決定し、第一弾として昨年10月から1%引き下げを実施しました。この年金改定通知に同意できない年金者が、法に基づいた審査請求を行ったものです。大北支部は目標を大きく上回る160名が提出しました。

年金改悪・消費税増税のダブルパンチ

年金月10万円75歳以上の場合で計算すると、年金減額＋消費税増額＋医療・介護保険料増で、2015年には月額が目減りが7950円になります。

これは憲法25条の「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」「国は、全ての生活面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努

めなければならない」とする規定に違反していると云わなければなりません。

最低保障年金制度の創設を

長野県では人口の4分の1を占める約50万人が国民年金を受けていますが、その平均は5万5000円という実態です。その年金から医療・介護保険料、住民税が引き落とされるのですから、自分で使える分はわずかになります。

憲法25条を充足させるには、

どうしても最低保障年金が必要で。

昨年5月開かれた国連社会権規約委員会から日本政府に對して、「高齢者の無年金・低年金とりわけ高齢女性の貧困に懸念」を表明し、最低年金の創設を再度勧告されています。

更に検討されている改悪案

年金2.5%引き下げは、10年以上前の「物価スライド特例分」を解消するためとして、民自公が合意し国会解散日に他の野党を巻き込んで（共産党と社民党は反対）ドサクサで成立させたものです。

皮肉

にも民
主党は
年金問
題で政
権を取
り、ま
た年金
で敗北
したと



言えます。
「マクロ経済スライド」という制度を利用して、さらなる年金引き下げを目論んだり、年金控除を見直し税金を重くする、年金支給開始年齢を68→70歳に引き上げることも検討されています。

県共産党後援会総会に参加

3月2日、長野県共産党後援会総会が、安曇野市サンモリッツで開かれました。

会場は立ち見も出る320人の参加で、熱気の中いつせいの地方選までの活動方針を確認しました。

記念講演を行った佐々木陸海中央委員会書記局長は「選挙勝利も、党建設も長野



佐々木中央委員が講演

討されています。
年金・医療・介護・保育などを含めた社会保障全般の改悪を阻止して、すべての人に適用する最低保障年金制度を確立しましょう。
(年金者組合組合員)

の前進が力ギだ」とと激励。日本共産党の値打ちを安倍自公政権と対比して、実力の上でも自共対決の時代にしようと呼びかけました。

地区後援会の発言で、池田ファンクラブを代表し山本久子副会長は「コースで読者と繋がり、共産党への支持を強めていきたい」と述べました。

来春の県議予定候補者が、決意を述べました。10名の当選を目指して（現職6名）頑張ります。

16日投票開票された松川村議選では、共産党新人上田治美さんが当選し、幸先よいスタートを切りました。（牛越邦夫）

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)

149号
2014年 3 月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ

原発廃止 いますぐに！ 福島原発事故から3年

東日本大震災と福島第一原発事故から3年となった3月9日、全国各地で「原発再稼働反対、秘密保護法廃止」の集会が行われました。

松本でも千人が松本城公園に結集し、原発や放射能の危険性について思いを語り、連帯と運動の拡大強化を確認しました。集会後、松本駅まで「原発なくせ」「再稼働反対」などを強く訴え、デモ行進しました。

福島では放射能汚染により、15万人もの人々が故郷を追われ、避難生活を強いられています。この先どう生活していくのか全くメドが立たず、苦悩しています。原発事故についても原因やメカニズム、メルトダウンした炉内の状態がほとんど把握できず、汚染水の処理もトラブル続きです。

それにもかかわらず、安倍政権は福島原発事故の実態を

コントロールされているなどとねじ曲げ隠蔽し、輸出や再稼働の策動を強めています。なかでも鹿児島県の川内原発が最も早く審査を終了し、再稼働させる可能性ががあります。

九州には阿蘇・始良・阿多カルデラがあります。これらの火山は10万年前から3万年くらい前に超巨大噴火を起こしていて、それに伴う巨大火砕流が発生し、川内原発玄海・伊方原発立地点にも到達していたと考えられます。超巨大噴火は1万年に1回の割合で発生していて、現在はいつ起きても不思議ではない時期と考えられています。

しかし、原子力規制委員会の再稼働審査では、大規模な火山噴火を想定外としています。審査に火山の専門家は一人もいません。『火砕流で原発が事故を起こしたら諦めるしかない』、審査委員の一人はこんな驚くべき発言をしています。

福島原発をおそった巨大地

震、巨大地震は想定外としていた反省と教訓が全く無視されています。

万が一にも事故は許されません。そして後生に大きな負の遺産を押しつける膨大な「死の灰」や猛毒の「プルトニウム」を抱えています。

原発の再稼働は不可能です。日本には再生可能エネルギーが原発の40倍もあるのです。今まで、ほとんど原発関連に使われた電源開発促進税（約3千億円）を、このエネルギーの研究開発に使用すれば、安心安全なエネルギーが使える、温暖化ガスも削減できます。

現在、原発は全て停止していますが、電力は足りています。原発利益共同体は、このような動きを阻止しようと策動していますが、一層運動を大きく広

め、原発廃止を実現しましょう。



コラム 有明

福島原発事故後3年の9日、「原発ゼロ」行動が全国で取り組まれ、私も東京日比谷野外音楽堂、国会・首相官邸前の集会・デモに集まった3万2千人分の7人（夫婦・長男夫婦・3人の孫）として参加▼集会場はもう満員で入れず、会場を取り巻く参加者と一緒に聞かえてくる演説に耳を傾ける。そこには多くの労組・団体など多彩な旗が風にはためく。数十年前に争議を支援した日本ロールの旗もあった。官邸前に行こうと歩道を進むと交差点で警官が「官邸前へは左の、国会へは右の歩道を」と親切に誘導。「官邸前はもう一杯で危険」との声にあきらめ地下鉄議事堂前駅へ▼翌日は68年前7万5千人が犠牲となった東京大空襲のあった日、墨田区横綱町の東京都慰霊堂へ夫婦で。ここは関東大震災の犠牲者5万8千人を納骨する震災記念堂でもあり境内には業火に焼かれ溶塊となった鉄柱等を展示。東日本大震災が2万人、犠牲者合わせて15万2千人にコウベをたれたことに：▼近くの回向院には鼠小僧次郎吉の墓があり、20歳前後の娘さんが墓を削り取っていたが、何のため？